



2月22日(火)、「第24回やくも少女ゆめ議会」が、八雲町議会場で開催されました。今回は、八雲高等学校の生徒8人(うち1人が議長)が、日頃感じているまちづくりに対する提案や意見を発言しました。その内容をまとめて掲載します(ページの都合上、要約し掲載しています)。

第24回 やくも少女 ゆめ議会



あさみず りか
浅水 理香 議長(八雲高等学校2年)

ゆめ議会の感想～議長という大役を経験して～

2月22日に行われた、やくも少女ゆめ議会に議長として参加させてもらいました。開会式では、高校生の議員を代表して、委嘱状を受け取りました。開会式が終わった後、議場に入り、私が議場の一番上にある議長の席に座り、一般質問を行いました。質問がすべて終了した後、閉会式を行い、やくも少女ゆめ議会が終わりました。

私は、この議会で感じたことや分かったことが2つあります。

1つ目は、八雲町が自分たちの知らない所で、たくさん事業を行っていることです。例えば、石黒さんが質問した林業によるバイオマス発電に関する質問です。町内では、すでにさまざまな再生可能エネルギー活用事業が検討されており、林業によるバイオマス発電はそのうちの1つということです。町のホームページなどでそのバイオマス発電の情報を得ることができるそうです。

2つ目は、議会という場についてです。私は、議場を一番上から見ていたため、議場全体の緊張感や臨場感がひしひしと感じられました。皆さんがしっかりと意見を聞いていて、町長もしっかり答えてくれました。相手が私たち高校生であっても、本当の議論のように周りの方々は運営、サポートしてくれました。そのような議場という場を知ることができました。

このやくも少女ゆめ議会は、昨年、新型コロナウイルスの影響により、延期されたものでした。このような状況の中で貴重な経験をすることができ、本当に良い機会になったと思います。



しみず しせい
清水 翔世 議員(八雲高等学校2年)

高齢者の暮らしを豊かに

車を持っていない高齢者が生活しやすいように、町内循環バスの導入はできませんか。

答弁)町長

2020年に実施されました国勢調査での、八雲町の80歳以上の人口は1,823人で、総人口の11.5%でありましたが、さらにこの先の2030年には14.6%、2040年には18.1%と、今後においても、年々、上昇していくことが予測されています。現在、80歳以上の方や障がいのある方、そして運転免許証を自主返納した方に対して、タクシー助成券を交付する支援を行っているところがあります。

町内では、JRや路線バス、民間のハイヤー、そして町のスクールバスなどが運行しており、町民はこれらを使い分けて移動手段に活用しております。しかしながら、利用者が年々減少しているため、これら交通機関のなかには便を減らしたり、路線を廃止しなければならない事態が生じてきているところがあります。

このような状況を踏まえ、町としては、今後の人口や高齢化率の推移などを参考に、将来の八雲町にふさわしい交通形態を築いていくための計画を作成したところでございます。

このたび清水議員からご質問のありました、町内を走る循環バスの導入については、この計画の中にも掲載しており、今後は循環バスの試験運行を行いながら、利用実態や利用者の意見等を把握してまいりたいと思っております。

ゆめ議会の感想

私は、運転免許証を返納した高齢者の買い物などの交通手段として、町内を走る循環バスを導入できないかどうかということについて議会にて提案しました。岩村町長は、町のバスの使用率や、高齢者の割合などを考慮しながら検討したいと、前向きな考えを示してくれました。おそらくこの先、このような貴重な経験は、なかなかできないものであると思います。今回、八雲高等学校の生徒会で参加でき、とても良かったです。また、これから先、さらに八雲町が良い町になると良いなと思います。